

蒲原勝美さん(電気s38)『アヨロ海岸夕景』を発表 (第49回 等迦展にて)

蒲原勝美さんが所属する美術団体「等迦会」は2月8日～20日まで、国立新美術館で「第49回等迦展」が開催され、全国から作品を公募し、文部科学大臣、東京都知事、毎日新聞はじめ多くの団体や個人から賞を戴く、権威ある美術集団です。蒲原さんは会の事務局長として頑張っておられました。

等迦会は大正15年に芸大西洋画科卒のグループ展として旗揚げし、昭和40年に再興された歴史ある会です。全国に10の支部があり、支部活動も盛んに行われています。

蒲原さんは、昨年までは「北海道の海」をテーマにシリーズで作品を発表されています。今年は故郷「登別の『アヨロ海岸夕景』」を発表されていました。

この会には電気38年卒の同級生が毎年10名近く集まり、絵の鑑賞の後はクラス会を弟さんのお店(蛍一会報に広告)でされたそうです。また、坂本前会長(電気 31年、会社の先輩)も、昔からの絵仲間友人、仲間と訪れていました。18日(土)午前中、関東六華会幹事会の前に、石堂会長、吉田幹事長と3人で、蒲原さんの案内で出展されている作品の解説をしてもらいました。(副会長・駒米隆)



蒲原 勝美さん 作品『アヨロ海岸夕景』の前で



受付の様子



多くの絵画が出展されていました



何れも素晴らしい作品でした